

くすり一口メモ

健胃薬の食塩含有量について

過剰な塩分の摂取は高血圧や腎疾患、心疾患の危険因子です。日本人は歴史的にも塩分摂取量の多い民族であり、1950年代は1日あたり25g摂取していた地域もありました。近年は健康志向への関心が高まり、塩分を控えた食品が多く販売されていることから食塩 (NaCl) の摂取量は11~12g/日まで低下してきています。しかし、欧米諸国の摂取量である8~10g/日と比較すると、依然として高い値となっています。

高血圧治療ガイドラインでは高血圧治療における減塩目標を食塩6g/日未満としています。生活習慣の改善にはより少ない量の食塩摂取が理想的といわれています。日常生活における食塩は、食事からだけでなく服用している医薬品からも摂取されています。その代表的医薬品として、総合健胃薬に制酸作用を目的に配合されている炭酸水素ナトリウム (NaHCO₃) があげられます。炭酸水素ナトリウム1gに含まれるナトリウム量は、NaClの分子量58.5とNaHCO₃の分子量84を用いて次の式で食塩量に換算することができます。

$$[\text{NaHCO}_3\text{の量 (g)} \times 0.7 = \text{NaClの量 (g)}]$$

今回は炭酸水素ナトリウムが配合されている医療用健胃薬とその食塩換算量についてまとめてみました。一口に医療用健胃薬といっても配合されている炭酸水素ナトリウムの量や1日の薬用量がそれぞれ異なるため、食塩換算量にも大きな差が出てきます。

薬 剤 名	1g又は1錠あたりのNaHCO ₃	用 量	食塩換算量	禁 忌	
ピアサン	0.86g	3.3~4.5g	1.99~2.71g	ナトリウムの摂取制限	
重散, ビットサン	0.7g	3.6~4.2g	1.76~2.06g		
重曹	1g	3~5g	2.1~3.5g		
重曹錠500mg	0.5g	6~10錠			
健胃錠	0.18g	6~12錠	0.76~1.51g		
健胃散	0.7g	3g	1.47g		
センブリ・重曹散		1.5~3g	0.74~1.47g		
MMD散		3.9g	1.91g	ナトリウムの摂取制限 過敏症の既往歴	
FK配合散	0.23g	2.6~3.9g	0.42~0.63g	ナトリウムの摂取制限 過敏症の既往歴 透析療法 (TM配合散以外) 高カルシウム血症 甲状腺機能低下症 副甲状腺機能亢進症	
HM散, KM散, M・M配合散 NIM配合散, OM配合散 S・M配合散, TM配合散 マナミンTM散, YM散		3.9g	0.63g		
エヌ・エス配合散 ツクシAM配合散		0.46g	3~3.9g		0.97~1.26g
ピーマージェン配合散		0.2g	3.9~4.5g		0.55~0.63g
バルサン		0.75g	4.5g		2.36g

*小数点第三位で四捨五入

これらの薬剤はすべてナトリウム摂取制限患者には禁忌となっています。健胃薬は以前から胃薬として経験的に広く使われていることに加え、安価であるという理由から常用している患者も少なくありません。禁忌の項目にはナトリウムの摂取制限だけでなく、透析療法や重篤な心疾患などさまざまな症状が記載されています。健胃薬を処方する場合は、患者の既往歴や食事制限の有無にも十分注意する必要があります。

参考文献 各薬剤添付文書
高血圧治療ガイドライン2009
日経DI 2012年8月号
病気が見える vol.2 循環器
(鹿児島市医師会病院薬剤部 平松さやか)